

【 令和6年度 問題 】

文部科学省が定義する不登校とは「病気や経済的な理由を除き、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある者で、年間に30日以上登校しなかった者」とされている。

表1（※）は、平成14年から令和4年までの不登校児童生徒数の推移のグラフである。このグラフによると、不登校児童・生徒の数は平成24年に一時的に減少しているが、それ以降は一貫して増加傾向にある。（ただし令和元年以降は新型コロナウイルス感染回避のための長期欠席が含まれている）

増加傾向にある不登校児童生徒について、あなたが考える不登校になる原因や理由について述べなさい。あわせて不登校状態にある児童生徒が健やかに成長するために、あなた自身のこれまでの経験や体験を踏まえて有効だと思われる手立てを説明しなさい。

（ ※表1は「不登校児童生徒数の推移のグラフ」／掲載は省略しています）

【 令和5年度 問題 】

日本におけることわざや格言のうち、あなたが「人生の役に立つ、共感や賛同ができる」と感じることわざや格言をひとつ挙げ、そう感じる理由を説明し、生活の中でどのように意識や実践をしているか具体的に述べよ。

次に、日本におけることわざや格言のうち「込められた教訓や知恵が、現在では通用しない」と感じる例をひとつ挙げ、社会状況や生活様式等を踏まえて通用しない理由を説明せよ。ただし、使われている用語の時代性だけを理由に通用しない例と判断しないよう注意すること。

（注意の例：『武士は食わねど高楊枝』は、現代には武士がいらないため通用しない。）

【 令和4年度 問題 】

パナソニック（旧松下電器産業）グループ創業者である松下幸之助は「社員一人ひとりが“社員という稼業”の経営者であれ。」との教えを唱えている。組織におけるリーダーシップのあり方を上記の教えに基づいて考えた場合、理想とされる組織や社員の様態について考察せよ。

併せて、あなたが一緒に活動したい・働きたいと考えるリーダー像に最も当てはまる実在の人物（過去及び現在、著名であるなしを問わない）を特定したうえで、そのように考える理由や当該人物のリーダーシップに関する具体的なエピソードを紹介するとともに、その人物からあなたが受けた影響や参考にしたいと思った点について述べよ。